



(講演者紹介)私にとっての女前なロールモデル

著者名	小倉 薫
雑誌名	東京女子医科大学女性医師・研究者支援センター女性医師支援シンポジウム抄録集
巻	平成26年度
ページ	11-11
発行年	2014-05-24
URL	http://doi.org/10.20780/00031956

講演者紹介

小倉 薫

東京女子医科大学

東医療センター乳腺外科 助教

略歴

2001 年 山口大学医学部医学科卒業

2001 年 東京女子医科大学 東医療センター 外科入局

2007 年 同 外科助教、日本外科学会専門医所得

2008 年 癌研究会癌研究所病理部へ国内留学、日本乳癌学会専門医所得

2010 年 東京女子医科大学 東医療センター 乳腺科助教(外科兼任)

2013 年 博士(医学)取得

私にとっての女前なロールモデル

私の医学部卒業時は研修システムが今とは異なり、スーパーローテートを実施している病院もありましたが、専攻する科を選んで入局先を決める形式が多かったです。私は外科(乳腺専攻)と決めていましたが、出身大学である山口大学に残るか、実家のある東京に戻ってくるか迷っていました。当時、東医療センター外科医局には就学前のお子さんがある濱口佳奈子先生(平成4年女子医大卒)がいました。濱口先生は消化器外科医としてしっかり仕事をこなし、また医局内での残胃のピロリ菌のデータをまとめて学位を所得される一方で、子育てに関しても娘さん2人ともを国立大学の付属小学校にいれ、習い事もしっかりさせる充実ぶりでした。濱口先生は私の入局先を決めるきっかけとなった女医さんで現在退局されていますが、今でも私にとっての女前なロールモデルです。

現在、私は2歳と1歳の娘2人を東医療センター院内保育室に預けて乳腺科の助教として勤務しております。大学勤務が継続できているのも清水乳腺診療部長をはじめ乳腺科・外科の先生方のご理解とご配慮のおかげと感謝しております。私の子育てと仕事の両立は始まったばかりでまだまだこれからです。東医療センターには子育てと仕事の両立をしながら勤務を継続されている身近な先輩女医さんから、その先には子育て経験のある多くの女性教授の先生方、上野病院長まで本当に多くの先人がいます。今後とも私自身いろいろな壁があると思いますが、無理のないよう勤務を継続し、また未熟ながら後輩の身近なロールモデルとなれるように頑張っていこうと思っています。